

## ぼくの妹

飯野 魁乙

ぼくには妹がいる。もうすぐ二才になる。わがままでマイペースでどうしようもない。そして超アホだ。なぜなら、鼻をほじっているのにくしゃみをして指をペトペトにして、その手をぼくにつけてきたりする。最低だ。

ぼくが宿題をしていると奴がやってきて、ドリルをやぶったり、ノートに落書きしたりする。じゃまだ。

テレビを見ているでも、自分の好きなアニメにかえろとわめくし、ゲームをしていれば、むりやり横取りしていじられる。最悪だ。

ねころんでいるぼくのはらにまたがり、ジャンプしたり立とうとしたり顔を目がけてたおれこんだりしてくる。きょう暴だ。

でも妹が笑うとこっちまで楽しくなってくる。結局にくめない。されるがままのぼく。なさけない。ぼくもアホだ。わがままなわけだ。

でも妹の笑顔はかわいい。だからしかたない。少しずつかみの毛のび、おでこがかくれ、やっと、本当にやっと、女っぽくなってきた。言葉も少しずつおぼえ、会話もできるようになる。

なり、歌も歌えるようになったし、手あそびもできるようになった。二人であそべる事もふえた。遊び相手ができてうれし。

一緒にいる時ははなれたいと思うこともあるけど、そばにいないとさみしくなる。やっぱり家族だ。

ぼくがまだ小さかったころ、お母さんに「ぼくは生まれる前は空の上についてずっとママたちの事を見ていたんだよ。そしてママを選んでおりてきたんだよ。」と言ったらしい。もしかしたら妹もそうなのかもしれない。だとしたらうれし。ぼくたち家族を選んでくれてありがとう。

妹が来てくれたからぼくはお兄ちゃんになれたし、毎日前よりもっと楽しくなった。

ぼくの名前をよんでだきついてくれることがある。そんな時幸せな気持ちになる。こういう時に妹がいてくれてよかったと思う。

あばれるし、泣くし、わめくし、最低な妹だけど、ぼくとっては最高の妹だ。ぼくのところに来てくれてありがとう。これからも大きく元気に育ってほしい。